

春日しゅん家けにに還かえる

正まさ岡おか子し規き

車くるま乗の馬うま騎りての早はや帰かえりきた来る
一ひとたび双そう親しん詣えつまは喜よろこ自おのらずか催もよおす

処しよ処しよ鶯うぐいす啼ないては春はる海うみにに似にたり
故こ園えんのの芳ほう樹じゆ吾われをを待まってを開ひらく

【作者】正岡 子規（一八六七〜一九〇二年）（慶応三年〜明治三十五年）、日本の俳人、歌人、国語学研究者。名は常規（つねのり）。幼名は処之助（ところのすけ）で、のちに升（のぼる）と改めた。俳句、短歌、新体詩、小説、評論、随筆など多方面に亘り創作活動を行い、日本の近代文学に多大な影響を及ぼした、明治時代を代表する文学者の一人であった。死を迎えるまでの約七
年間は結核を患っていた。